

オリンピック・パラリンピックのボランティアに参加しました 感謝と貢献を動機に、感動と交流を収穫に

伊東稔雄（広報部会）

私がオリンピック・パラリンピックのボランティアを志願した動機は感謝と貢献です。前回の東京大会をはじめオリンピック・パラリンピックからはこれまで多くの感動をもらいました。それらに対する感謝・恩返しをしたいという気持ちからです。また、私の人生ではたぶん最後になるであろう東京での開催に何らかの貢献をしたいという気持ちもありました。

面接や研修を重ね準備を進めていましたが、コロナウイルスのため、1年の延期が決定されてしまいました。2021年に実施が決定されたと思いきや、直前になり無観客となりました。私が活動する予定であったイベントサービス（主に観客の案内や誘導等）という仕事がなくなってしまったのです。

幸いなことに、組織委員会が役割を与えてくださり、幕張メッセで行われたフェンシング競技のテクノロジーチーム（時間や電光掲示板の管理、選手がつける器具の管理等）の一員として活動することができました。活動中は緊張しましたが、大きな充実感を得るこ

とができました。

フェンシング競技を見ることは初めてでしたが、世界のトップの選手たちの試合には感動しました。また、男子エペ競技において日本チームが金メダルを獲得したことにも感激しました。

ボランティア仲間との交流も収穫の一つです。我々のチームには外国からの方もいろいろな話することができました。ボランティア仲間同士での国際交流も進んだことがうれしく感じられます。

今回のオリンピック・パラリンピックの実施については様々な意見があり、我々ボランティアも、コロナで苦しんでいる方々や悲しい思いをされている方々に思いをはせながら活動していました。同時に、世界中が苦しむ中、人生をかけて努力を続け、この場に立つアスリートたちのパフォーマンスを支えたいという気持ちもあったように思います。そして今、今回のオリンピック・パラリンピックが、理念である世界の平和にほんの少しでも寄与できていたならうれしく思います。



会場入口(左)、競技ロゴ(中)、マスコット(右)